

アドテックプラズマテクノロジー (6668) アウトパフォーム (継続)

17/8 期会社予想再々上方修正で最高益更新、18/8 期も新製品で収益上伸予想

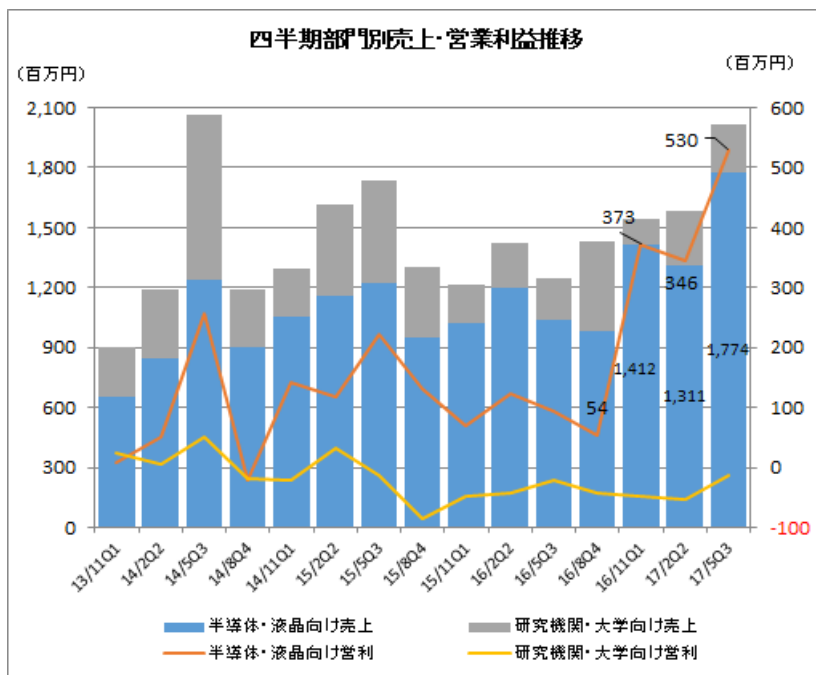
株価 2028 円 (7/14) 時価総額 174 億円 (7/14) 発行済株 8,586 千株 (7/14)
 PER (17/8 : 17.6X) PBR (5.15X) 配当 4.00 円 配当利回り 0.20%

要約

- ・ 17/8 期 3Q 累計は半導体液晶関連事業伸長で 35.8%増収、営業利益は 6.4 倍の 11.18 億円
- ・ 17/8 期予想を再々度上方修正で最高益更新予想、35%増収、営業利益 7.2 倍の 13.5 億円に
- ・ 18/8 期は半導体設備投資の積層化・微細化で需要拡大、新製品も寄与し収益上伸続く
 バラスト水処理用電源開発に加え新製品攻勢続く
- ・ 目標株価は会社予想 115.33 円に対し精密機械平均 23 倍の 2650 円目標

17/8 期 3Q 累計は半導体液晶関連事業伸長で 35.8%増収、営業利益は 6.4 倍の 11.18 億円

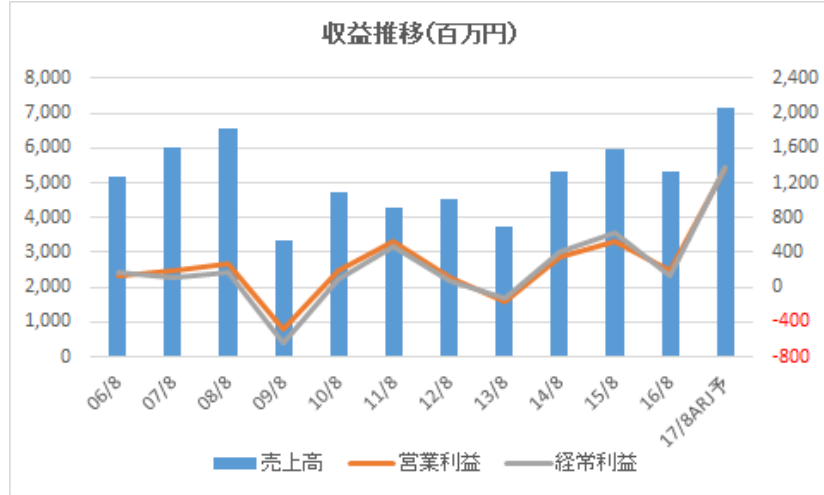
7 月 14 日に 17/8 期 3Q 業績発表、17/8 期業績予想の再々増額修正があった。17/8 期 3Q 累計は売上高 52.74 億円 (前年同期比 35.8%増)、営業利益 11.18 億円 (同 6.4 倍)、経常利益 11.44 億円 (同 6.5 倍)、税引利益 8.67 億円 (同 8.0 倍) となった。売上面では主力のプラズマ用高周波電源を中心とした半導体・液晶関連事業向けが、スマートフォン等のディスプレイ向け成膜装置向けに好調持続し、売上高 46.81 億円 (前年同期比 44.1%増)、営業利益 11.99 億円 (同 4.1 倍) と全体を牽引した。一方、研究機関・大学関連は厳しく売上高 5.94 億円 (前年同期比 6.5% 減) だったが、営業損失は 0.79 億円と 0.34 億円の赤字縮小となった。なお、3Q だけでは 61.3%増収、営業利益 7.0 倍、半導体・液晶事業関連向けは 71.5%増収の 17.74 億円、営業利益は 5.6 倍の 5.30 億円、営業利益率 29.9% となっている。



17/8 期予想を再々度上方修正で最高益更新予想、35%増収、営業利益 7.2 倍の 13.5 億円に

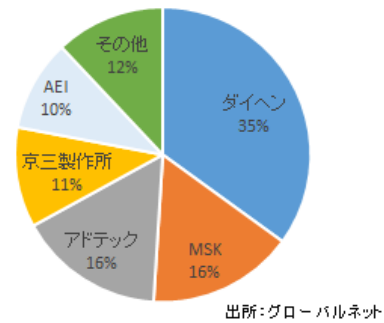
17/8 期 3Q の好調を受け、会社側では 17/8 期業績予想を再々度上方修正し、売上高 71.75 億円 (35.0%増、前回計画比変更なし)、営業利益 13.5 億円 (7.2 倍、同 1.77 億円増額)、

経常 13.7 億円 (10.6 倍、同 1.89 億円増額)、税引利益 9.9 億円 (35.4 倍、同 1.1 億円増額) とした。逆算での 4Q では売上高 19.00 億円 (前年同期比 32.9%増)、営業利益 2.31 億円 (同 21 倍)、経常利益 2.26 億円 (同黒転)、税引利益 1.22 億円 (黒転)、営業



利益率 12.2% 予想となる。部門別予想を開示していないものの、主力の半導体液晶関連事業向けではタッチパネルディスプレイ向け成膜装置(シェア 70~80%)向け、半導体の微細化、3DNAND フラッシュの世界的な設備投資増から同社電源への需要拡大が続こう。DO では前回、売上修正の割に利益修正幅が小さいと判断、今回は前回 DO 予想に近い利益予想となっており、4Q の営業利益率が 3Q 比で 10 ポイント低下する予想となっているが、期末での各種評価損などの計上もあると判断し、会社予想並みの収益達成を予想した。

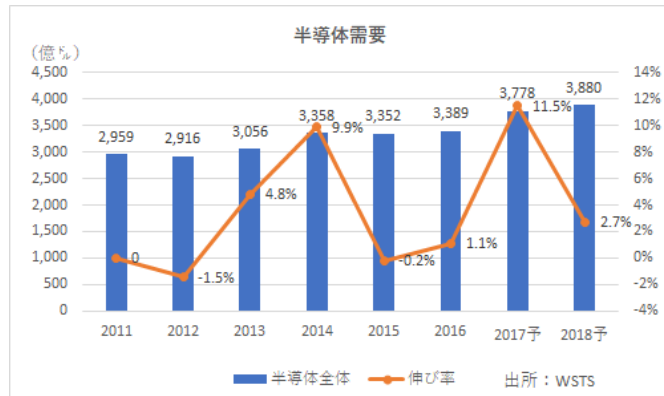
2016年度高周波電源システム国内シェア



18/8 期は半導体設備投資の積層化・微細化で需要拡大、新製品も寄与し収益上伸続く

現在、同社の 5 大ユーザーはオプトラン (ITO 透明電極スパッタ向け)、ASM (プラズマ

CVD 装置)、日立ハイテク (エッチング装置)、東京エレクトロン (エッチング装置)、アルバック (スパッタリング装置など) と、いずれも収益拡大が続く見通し。WSTS (世界半導体市場統計) 予測では半導体世界需要が 2017 年 11.5% 増の 3778 億ドル、2018 年も 2.7% 増の



3880億ドルと過去最高を更新する予測となっている。これに合わせて日本製半導体製造装置需要も2017年は11.0%増の1兆7363億円、2018年も5.0%増の1兆8231億円を見込む（日本半導体製造装置協会予測）。このような環境下で、特にエッチング装置はHDDからSSDへの置換、スマホ搭載メモリの大容量化で半導体設備投資の伸びの3~5倍の台数が必要と言われており、18/8期以降も同社収益の拡大が見込める。しかも微細化、積層化などでクラスターツール化（複数のプロセスチャンバーを持つ装置）も進展、エッチング装置ではソース用に加え、バイアス用にも大容量電源を利用することが多くなっており、電源装置の使用個数と大容量化も追い風となっている。利益面ではベトナム工場での標準品増産と、コスト削減が見込まれ、収益性はさらに高まろう。

また同社は17/8期に新製品として2品目の有望製品を立ち上げた。その一つは半導体製造装置に付着した微粒子を除くプラズマ発生装置のリモートプラズマシステム。従来の数分の1の電力で効率的に洗浄でき、コスト削減につながる。チャンバークリーニング向け、CVDエッチング用プラズマソース需要としても期待され、既存の製造ライン向けも見込める。1台350万円程度であり、18/8期以降、年間100~200台の販売を見込むが、中期的には数十億円規模の製品に育とう。

もう一つは医療分野の低温プラズマ発生装置（マイクロプラスター：MicroPlaSter）。非接触で局所殺菌を可能とする低温皮膚炎治療やバイオフィルムの殺菌に効果がある。2014年に欧州医療機器認証CEマークを取得、2016年5月に小型軽量化したSteriPlasを展示、1台1500万円の装置で、17/8期にドイツの医療機関へ出荷も始めた。17/8期以降、年間10~20台の販売が期待される。

バラスト水処理用電源開発に加え新製品攻勢続く

「船舶のバラスト水及び沈殿物の規制及び管理のための国際条約」が2017年9月に発効する。代表的なバラスト水処理方法は、①フィルター+UV、②電気分解、③フィルター+薬剤、④オゾンによる処理。現在はフィルターと連携構成の処理設備が約77%を占めるが、ガイドライン変更で“フィルター+海水電解”処理設備が増える可能性が高い。同社グループ会社のIDXで電気分解向けプラズマ装置を開発、18/8期以降、研究機関向けの低迷を埋める起爆剤となる可能性がある。

このほかSiC基板向け大気圧プラズマ熱処理装置の開発と非接触基板温度測定装置の開発も行っており、パワーデバイス製造装置向けへの需要が期待される。さらに医療機器でもミリ波利用の電源を開発、新たな医療機器開発あり新製品攻勢が続く。

株価は会社予想EPS115.3円に対し精密セクター平均の2650円目標

同社の株価は、半導体設備投資、次世代液晶設備投資などの好調を受け順調に上昇したが、今回の修正会社予想EPS115.33円に対してもPER17.6倍に過ぎず、依然割安感が強い。最高益更新銘柄でもあり、同業国内最大手はダイヘンながら、専門メーカーとしてのインパ

クトは大きく、精密セクター平均 PER23 倍である 2650 円を目標としたい。なお、来期も最高益更新が続く見通しのほか、「船舶バラスト水規制管理条約」の 9 月 8 日発効により新たな展開も加わる可能性も高く、中期的に 2014 年 8 月の最高値 3475 円を抜き、18/8 期 DO 予想 EPS157.2 円の 23 倍となる 3600 円を目指す動きとなろう。

アドテックプラズマテクノロジー(6668)	(百万円、円)									
	売上高	増減率	営業利益	増減率	経常利益	増減率	税引利益	増減率	EPS	配当
16/8	5,314	-10.6%	187	-64.4%	130	-79.6%	28	-93.6%	3.3	4.00
17/8Q1	1,543	27.3%	324	1412.2%	339	1079.8%	248	2188.9%	28.9	0.00
17/8Q2	1,719	20.7%	280	245.9%	287	1120.6%	238	822.7%	27.7	2.00
17/8Q3	2,014	61.3%	515	598.1%	517	320.0%	382	428.9%	44.5	0.00
17/8Q4会予(7/14)	1,900	32.9%	231	1970.3%	226	黒転	122	黒転	14.2	2.00
17/8H1	3,261	23.8%	604	490.5%	627	1098.2%	486	1227.1%	56.6	2.00
17/8H2会予(7/14)	3,814	46.1%	746	778.4%	743	859.3%	504	-6279.2%	58.7	2.00
17/8会予(10/14期初)	5,793	9.0%	444	137.6%	439	238.9%	286	905.4%	33.36	4.00
17/8会予(1/13)	6,347	19.5%	684	265.4%	694	435.4%	473	1561.0%	55.2	4.00
17/8会予(4/14)	7,175	35.0%	1,173	526.5%	1,181	809.9%	880	2990.2%	102.5	4.00
17/8会予(7/14)	7,175	35.0%	1,350	621.1%	1,370	955.6%	990	3376.5%	115.3	4.00
17/8DO予	7,175	35.0%	1,350	621.1%	1,370	955.6%	990	3376.5%	115.3	14.00
18/8DO予	8,600	19.9%	1,900	40.7%	1,900	38.7%	1,350	36.4%	157.3	30.00
19/8DO予	10,000	16.3%	2,300	21.1%	2,300	21.1%	1,650	22.2%	192.3	40.00

年度	13/8	14/8	15/8	16/8	17/8DO予	18/8DO予	19/8DO予
売上高	3,742	5,347	5,942	5,314	7,175	8,600	10,000
営業利益	-159	356	526	187	1,350	1,900	2,300
経常利益	-130	400	636	130	1,370	1,900	2,300
親株主帰属純利益	-89	250	446	28	990	1,350	1,650
セグメント売上情報年度	13/8	14/8	15/8	16/8	17/8DO予	18/8DO予	19/8DO予
半導体・液晶	2,190	3,639	4,383	4,235	6,200	7,200	8,500
研究機関・大学向	1,552	1,709	1,558	1,079	975	1,400	1,500
合計	3,742	5,347	5,942	5,314	7,175	8,600	10,000
セグメント営業利益	13/8	14/8	15/8	16/8	17/8DO予	18/8DO予	19/8DO予
半導体・液晶	-246	293	612	343	1,620	1,880	2,230
研究機関・大学向	82	61	-88	-155	-120	20	70
合計	-164	354	524	187	1,500	1,900	2,300
調整額	5	1	2	-0	-150	0	0
営業利益	-159	356	526	187	1,350	1,900	2,300
年度	13/8	14/8	15/8	16/8	17/8DO予	18/8DO予	19/8DO予
売上高	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
売上原価	0.0%	68.1%	66.2%	67.4%	58.2%	58.1%	58.5%
売上総利益	0.0%	31.9%	33.8%	32.6%	41.8%	41.9%	41.5%
販管費	0.0%	25.3%	25.0%	29.1%	23.0%	19.8%	18.5%
営業利益	-4.2%	6.7%	8.9%	3.5%	18.8%	22.1%	23.0%
経常利益	-3.5%	7.5%	10.7%	2.4%	19.1%	22.1%	23.0%
親株主帰属純利益	-2.4%	4.7%	7.5%	0.5%	13.8%	15.7%	16.5%
セグメント営業利益率	13/8	14/8	15/8	16/8	17/8DO予	18/8DO予	19/8DO予
半導体・液晶	-11.2%	8.1%	14.0%	8.1%	26.1%	26.1%	26.2%
研究機関・大学向	5.3%	3.6%	-5.6%	-14.4%	-12.3%	1.4%	4.7%
合計	-4.4%	6.6%	8.8%	3.5%	20.9%	22.1%	23.0%
調整額	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	-2.1%	0.0%	0.0%
営業利益	-4.2%	6.7%	8.9%	3.5%	18.8%	22.1%	23.0%

